'95 12月号 No.518

京交山岳部報

例会・行先	日程・集合	担当者	コース
第2054回★★ 一等三角点の山 岩戸山 548.8m	12／9（土） 7：30 壬生集合	大槻 雅弘 （703）	壬生－篠山－岩戸…△I岩戸山…往路下山
9／16（土）に雨天で延期したもので，今年中に登り納めたく，12月の納山にと計画しました。 1／5万図 篠山			
第2064回★ 花背山村交流の森 （自然観察会）	12／10（日） 8：30 壬生集合	岡田 茂久 （790）	冬枯れの花背の山々の動物，植物等の自然を観察します。
山岳連盟自然保護委員会主催です。 簡単な冬山装備（ストック，スパッツ等）を準備して下さい。 詳細は担当者まで!!			
第2065回★ 納山祭 保津峡 落合	12／16（土）～17（日） 16（土）13：00 壬生集合	井戸 澄夫 (822-9175内810) 大倉寛治郎 （642－4332 内2－3382） 田村 正弘 (822-9176内812)	16日16：00～ 落合にて納山祭（テント泊） 17日 朝食後，壬生へ戻り，山岳部倉庫の整理を行います。
参加費は2,000円です。			

今月の集会

日 時　12月12日（火）18：00
場 所　厚生会館4F 大教室

企画運営委員会

日 時　12月20日（水）18：30
場 所　厚生会館4F 大教室

山声雪語

高い山々の紅葉・黄葉は散り果て，街の木々が色づきを深めてきた。11月末までが見頃であり，観光都市京都が一番賑わう季節である。

最近，東京に出張で行った。昼下がりというのに，地下鉄はラッシュアワーなみの満員である。これだけ客が乗れば十分な利益がでているであろう。運賃も160円でかなり遠くまで行ける。京都の地下鉄も結構人が乗っているが，これほどではない。

東京のターミナルの人間の洪水を見ていると疲れてくる。東京圏への人口と政治・経済機能の集中は，住宅問題・交通問題等をひき起こしている。こうした状況を打破しようというのが，首都機能移転論である。しかし，最近の議論を聞いていると，都市機能の分散が，一極集中の打破・地方自治の拡大という視点よりはむしろ，分散化によるリスクの回避，保険をかけるためといった傾向が強いようだ。大地震等で東京の都市機能がマヒしたとき，即座に政治・経済の司令センターが移転可能になる場所ということで，東京から1時間程度で移動でき，地震や洪水等で共倒れにならない場所。また開発行為がまだなされていない場所。そう考えてくると，どうも候補地は富士山の裾野が最有力となっている。すでに山梨県には磁気浮上式超高速鉄道の試験線が建設中であり，オウム事件で有名になった某所あたりは広大な未開発地が残っているようだ。首都移転は21世紀初頭の公共投資の目玉になろう。もっとも余り性急にやりすぎると富士山が怒り出すかもしれない。地質年代からすると，富士山の活動は小休止しているにすぎないのであるから。

12月は納山祭である。今年も保津川落合でやることになった。厳寒の保津の川面に炎を映して，この1年の山行を語り合いたいものである。

（11月12日記　S．I．）

【第２０４５回例会】

苗　場　山　一等 2,145.3 m

大　倉　寛治郎

苗場山の美しい山容を見たのは，スキーで訪れた野沢温泉毛無山の展望台からである。以後目の奥に焼きついた姿はなかなか消えなかった。

新潟県南魚沼郡湯沢町中魚沼郡津南町と長野県下水内郡栄村との境。上越線越後湯沢駅の西15㎞，標高2,145 m 上信越高原国立公園の北端部，輝石安山岩からなる，那須火山帯に属する火山で，かっては楯状火山と考えられていたが，現在は円錐状火山が浸食を受けて頂上が平坦になったものと考えられている。又，初夏になると高山植物のミヤマイが湿原に苗代田のように目をふくのでこの山名がつけられたという。山頂には伊米神社が祀られ，古来より修験道場として地元民の信仰を集めていた。

山頂の南西斜面には約14㎞にわたり溶岩流が広がる。北方にのびる長大な尾根には展望のよい神楽ケ峰，樹林に覆われた雁ケ峰，高石山，三多古山，西戸屋山などがあり，東にのびる側陵末端には八木尾山がある。（山名辞典より）

今年度二回目の計画で実現する事に成る。９月14日（木）午後８時天候の状態は雨で，おまけに台風が接近して山行には良くない状態だが予定通り出発する。京都東ＩＣを午後８時47分に入り，北陸自動車道を米山ＳＡエリアまで走り休憩所の軒下でテントを張り仮眠を取る。

９月15日（金）午前５時30分目を覚ます。やはり雨だがテントをしまい出発午前７時10関越湯沢ＩＣを出る。ＪＲ湯沢駅へ立寄り情報収集を行うがあまり良い状況でない。ひとまず朝食を取り策を練るがどちらにしても頭が痛い。

登山準備，雨具等を身に付け状況しだいでは引き返す事で出発，和田小屋下の駐車場まで車で入る事が出来駐車する。この雨にもかかわらず登山者も多くその一団の人となる。

雨と霧で視界がきかずひたすら登る事になる。登山道は小川ができ足元が悪く滑り易い。長靴にしたのが大変良かった。又雨で濡れるより自分の汗でサウナスウツを着ているようで脱ぐ。雨も霧雨から登るにつれしだいに好天のきざしがみえだし，小松原分岐に着いたときには曇りの状態となる。高山植物のリンドウやウメバチ草が咲き乱れ気分を和らげてくれる。神楽ケ峰の2,029.5 m 三角点は台座のみであった。ここまで来ると誰も引き返すことも言わず来て良かったと思うように時々太陽が照りだす。ここからが最後の踏ん張りで，いったん最低鞍部まで下る途中にある雷清水の水場で水の補給をする。「小屋は水が不足しているので必ず補給すること。」そして，情報では登る途中に「光る苔」があると聞いており，あれやこれやと講釈をしながら登っていくと，岩の割れ目奥に蛍光色に輝く光る苔を多く見ることができた。おかげで登りの辛さを忘れてしまう。そうこうしているうちに急に視界が広がり山頂の一角に出て小休止。木道を進むにつれ広大な湿原が，「どこまでもどこまでも」広がりここまでの辛さをいっぺんに忘れさせてくれた。

一等三角点2,145.3ｍは，遊仙閣裏の広場にある。又山の神が私達を歓迎をしてか，太陽が照りだし最高の感激である。三角点を囲み恒例のバンザイとカンパイはいつもより力がこもる。記念撮影後，予約しておいた苗場山頂ヒュッテに入る。小屋の女主人は「アルバイトの青年が数日前，下りたまま小屋へ戻ってこない」という，「今日は夕食準備までには親戚の人が荷物を担いで来るのでほっとしている」とこぼす。

女性は，夕日と星の鑑賞をして神秘的で良かったと伺うた。山小屋の夜は早い午後９時消灯で，疲れのせいか床に就くといつしか眠っていた。周囲のざわつきで目を覚ますと午前５時30分であった。朝食後小屋の方たちと記念写真を取り，薄曇りの天気で天候の回復が望めないので，残念だが予定をしていた赤湯へ下るのを断念して，午前７時山頂ヒュッテを出発，湿原の木道を回遊し往路下山する。膝が笑うほど急な登山道を最低鞍部までの間にある光る苔を鑑賞しながら下る。雷清水で水の補給して神楽ケ峰，小松原分岐，中ノ芝へと下りて来ると雨も本降りとなる。1,620ｍの所にあるリフト終点の下でコーヒータイムをとる。登山道は雨で小川化して足下も非常に不安定で滑りやすく悪戦苦闘しながら和田小屋につく。汚れた足元を洗い自動車道を駐車場へ。みつまた温泉鶺鴒の湯へつかり二日間の汗を流し，二階の広間で昼食，休息をとり湯沢駅へ立ち寄り，関越湯沢ＩＣから北陸自動車道を走り京都東ＩＣを出る。皆様お疲れ様でした。

【参加者氏名】

坂田利春，森本清一，大倉寛治郎，他４人

【コースタイム】

９月１４日　自宅20時08分，名神京都東ＩＣ20時47分，北陸道南条ＳＡ22時27分～37分

９月１５日　北陸道有磯海ＳＡ０時28分～56分，米山ＳＡ２時15分～（仮眠）～５時52分，関越道湯沢ＩＣ７時10分，ＪＲ湯沢駅７時15分～８時30分，和田小屋下の駐車場９時15分～25分，和田小屋横の登山口９時47分，中ノ芝11時53分～12時20分，神楽ケ峰12時30分～50分，雷清水13時20分～30分，山頂の一角に出る14時25分，苗場山一等三角点14時40分～15時08分，苗場山頂ヒュッテ15時10分

９月１６日　山頂ヒュッテ７時00分，雷清水８時15分～25分，神楽ケ峰８時43分，中ノ芝９時18分，約1,620ｍの所に有るリフト終点９時30分～55分，和田小屋11時20分，駐車場11時50分～12時，鶺鴒の湯12時20分～14時10分，ＪＲ湯沢駅14時25分～15時15分，関越湯沢ＩＣ15時25分，米山ＳＡ16時45分～55分，有磯海ＳＡ18時22分～51分，賤ケ岳ＳＡ21時17分～40分，京都東ＩＣ22時55分，自宅23時35分

【第２０５５回例会】

伏見山（ぶくみやま） Ⅲ △710.1 m

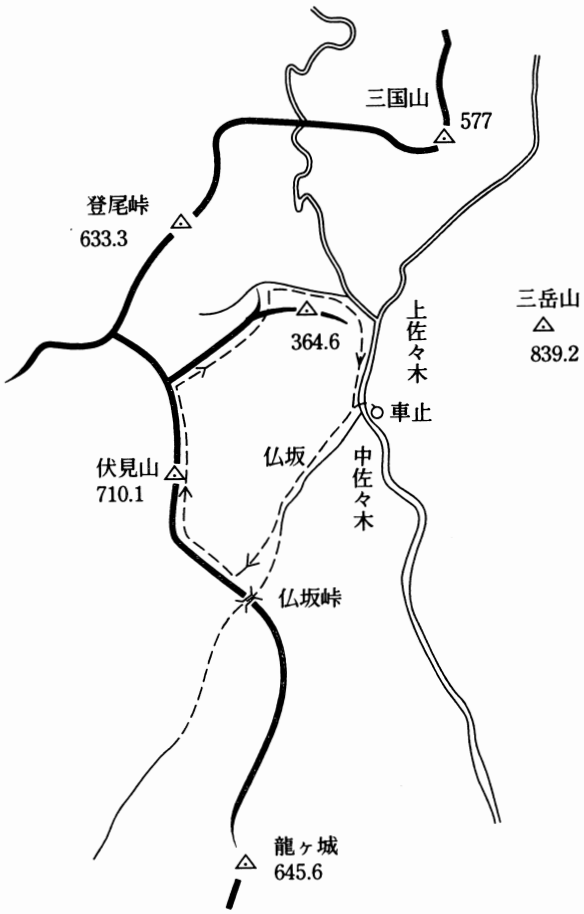
津田　実

伏見（ふしみ）と言わず，伏見（ぶくみ）山と言う変わった名称を持つ山に旺盛な好奇心を抱き山陰道を西に向かう。

例に依って老ノ坂を越えると亀岡方面は深い霧に包まれていた。古人は，これを「霧海乃国」と称したが，誠に適切な表現。古人の言葉はロマンがある。

Ｒ９号を下小田集落から分かれてＲ426号を北上。仏坂口に車を停め，服装を整え仏坂峠に向かう。

仏坂集落で農作業の女性に何処へ行くのかと尋ねられ，仏坂峠から伏見山に登ると言うと「昔は道があったが今はない。それで伏見山へ登るなら息子を入口まで案内する」と仰しゃったが，それは余りにも申し訳ないと固く辞退する。それでは「気を付けて行きなさい」と胡瓜を沢山頂いた。集落を外れ田圃の果てに猪除けのネットが張られているのを見て，山村であることを再認識。そのネットをくぐってゆくと道は自然に山に入って行く。



最初の小谷を沿上する。付近は暗い桧林で登るに従って径は細い踏跡に成りそれも朧て消失。前方に見える尾根を目標に枯れた藪を強引に登って尾根上に出たが，どうも仏坂峠より少し北西の尾根に出たらしい。

そこで岡田さん，大槻さんが峠の確認に行かれたから，小生らは617ｍのコルで両氏の到着を待つことにした。30分ほどで仏坂峠の写真を撮って来た大槻さんと合流し，尾根筋を登る。

大槻さんから頂いた案内書が言うように西は（夜久野町）雑木林，東は

（福知山市）桧林で，前方に伏見山らしい峰も見える。雑木と桧の間の踏跡を辿る。ピーという鳴き声と共にササ原を白い尻を見せた鹿が谷を下って走るのが見えた。所々の赤い杭が国界を示して山頂へ導いてくれやがて三等三角点に無事到着。

滞頂約1時間。次なる三角点小野原の364.6m目指して出発進行。国界上に鹿除けのネットが延々と続き，その作業のためにつけられた踏跡を北上する。やがてネットが北西に大きく折れる地点からネットと分かれ我々は東北へ向かうが，前途はけもの道もない全くの自然林である。

左に登尾峠のアンテナが見えるのだが非常に難解な地形の尾根を下る。薮に眩わされたのか，目標の尾根の分岐を見落としたのか，急斜面を谷に降り，今は廃された林道を下り，アマゴ養殖場を見学，上佐々木集落を経て，駐車地点に戻った。

予定の時間より早く下りられたので，最近出来たという但東町のシルク温泉に入って，汗と埃を落とし，さっぱりした気分で帰洛した。

岡田さん，大槻さん，ありがとうございました。おかげでまた，新しい山に登れました。

【参加者】　岡田，大槻，今井，方山，津田，他1名

【コースタイム】

壬生 7:40 → 仏坂口 10:15 → 取付点 10:35 → 尾根 11:20 → 三角点 12:35 〜 13:30 → 休憩 14:25 〜 14:30 → 林道に出る 15:10 → アマゴ養殖場 15:21 → 上佐々木集落 15:35 → 仏坂口 15:46

95.10.7　天候　晴れ

付　記　　上佐々木付近の人々は大変素朴で親切な人が多く，道で会った，見知らぬ我々にも親切に声をかけてくださった。「お三岳さんに行かはったんか，何処から来はったんや。京都から，そら大変や，気いつけてお帰りやす」と云うように。
このようなことは街では絶えて久しい。我々も見習わねばと，感じ入った次第。

追　記（大槻）

この山は，5月から例会を出して雨や勤務の都合で延び延びになり，やっと実行出来た山である。尾根続きにある南の三角点の龍ケ城を大阪の慶佐次氏と合同登山して以来，気になっていた山である。ここ最近，京都府下182座の山から遠ざかっていたが，この山を登って163座になった。私の知る限り182座完登者は坂井久光氏と，一等三角点研究会々長の三谷忠男氏と，京都山の会の横田和雄氏の3人である。別に数に拘っている分けではないが，出来れば2〜3年の内に小生も完登したく思っている。やはり残っている山は無名で辺鄙な所でなおかつ登山対象としては魅力ない山ではあるが目標を持って登りたい。一つの拘りの山行と思っている。

【第２０５６回例会】

鉢　　盛　　山

岡　田　茂　久

槍ケ岳や穂高連峰を望む機会は，間近に対面する常念岳や蝶ケ岳の稜線からか，八ケ岳，美ケ原等からの遠望することが多い。鉢盛山は長野県塩尻の西方にあり，ちょうどその中間に位置する。なだらかに盛り上がる2.446ｍの山頂は，長野県の朝日村，波田町，木祖村，奈川村の境界となっており，乗鞍岳，木曽御岳とは境峠，野麦峠また鎌ケ峰，長峰峠等を経て峰続きとなっている。

鉢盛山が占めるその好位置は北アルプス，乗鞍，御岳，中央アルプス，南アルプス，八ケ岳，美ケ原，黒姫，妙高等々，全周にわたる眺望が楽しめ，一等三角点が埋設されるだけあって，すこぶる付きの絶品である。2,400ｍ超の標高でありながら，北アルプス，乗鞍，御岳の3,000ｍ峰が近くにあるため，容易に登れる上に優れた眺望を持ちながら，訪れる人も少なく全く不遇の山と云えよう。

登山道は各村々から付いているが，登り易いのは朝日村からで，他はいずれもアプローチに難があり登山道も整備されていない。朝日村は鉢盛山を貴重な観光資源としており，標高1,700ｍ付近までの村営林道の通行許可等，登山者に大いに便宜を計ってくれている。

当然に時間に余裕の無い我々も，朝日村に林道の通行許可を求めたのであるが，悪い日に計画したもので，あいにく予定した日には林道工事のため通行できないということである。それではと木祖村側からと営林署に林道の通行許可を求めたのであるが，特別の場合以外は一般の通行は許可できないとのこと。年寄りが死ぬ前に是非にも木曽川の源流を見たいといっているのでと，お情けに訴えてみたけれど，これは特別とは認めてもらえなかった。日を変えて朝日村からなら登れますよと冷たい御託宣である。あきらめて10㎞余の林道はテントを担いでと覚悟していたら，思いがけない朗報が入った。朝日村から林道の補修が完了したので通行許可します。当日は休日ですが役場の郵便箱に林道のゲートの鍵を入れておきますと，なんとも有り難いことである。

営林署もリスクばかり考えず林道の通行料金をとり，事故が起きても責任持ちませんよと一札を取ってでもよいから，通行を認めてもらうわけにはいかないものだろうか。微々たるもので多大の赤字に苦しむ林野行政の打開策とは行かないものの，ゲートの修理費位にはなると思うのである。しかし，先般，某営林署に入山許可を求めに訪れたが，申請書を受理したあと，担当官は何冊かの帳簿に記入し，署内を印を求めて行ったり来たり，またまた帳簿に記入し印を求めて数往復した。その間約40分，事務の繁雑さに林野行政の行き詰まりの縮図を見た思いで，これでは林道通行の緩和など望むきも無いなと感じたものである。

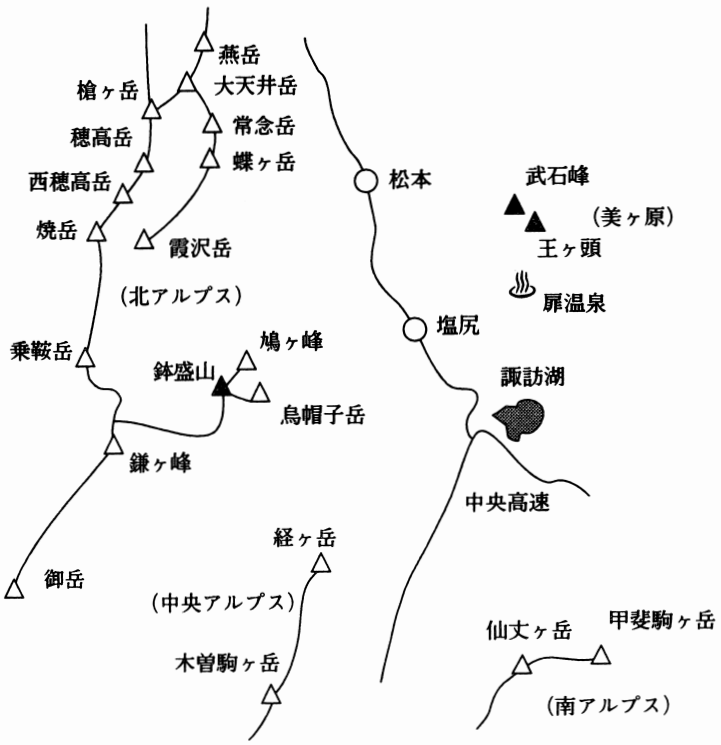
十月ともなると早立ちの朝５時はまだ真っ暗である。塩尻ＩＣには９時，正に「時は金なり」で最近は信州の山でも日帰りが可能となった。ひなびた山の村を想像していた朝日村は，農協経

営の大きなスーパーまであって明るい農村の典型である。役場は村の中心にあり，郵便箱に宛名を記入した封筒が数袋入っていた。休日には我々と同様の登山者が多いようである。封筒には№18の林道の鍵と，案内書に地図まで同封されている親切さである。立派な農協スーパーで食料を追加，時間のある山行きは食料も現地調達とすることが多くなった。

村外れのきれいに整備された公園を抜け御馬越林道に入る。案内書によると御馬越とは木曾義仲が馬で越えたからとも，松本平で飼育された馬を山越えで京に送る道であったから命名されたともあった。装備された林道は間もなく地道となるが路面は悪くない。林道のゲートは先行者があるのか開け放されたままで，うっかりすると通り過ぎてしまうところであった。谷奥へ導いてくれる林道は，やがてつづら折れにぐんぐんと高度を上げ，眼下に松本平が大きく広がる頃，コンクリートの大きな岳沢橋を渡り，鉢盛山岳沢入登山口の標識のある広場に着く。地図にある林道から鉢盛山への破線路とは異なっている。沢の手前からの破線路は既に廃道らしい。林道はまだ奥へ伸び，木曽側へ峠越えをして木祖村からの林道と連結しているが，鉢盛山登山口の先は整備されておらず，落石が林道を塞ぎ通行不能となっている。

標識からの登山道は一部に危なかしいところもあるが，相当の樹齢を経たモミやトガ等の針葉樹の原生林の中をジグザグに登っていく。原生林と伐採地を分ける支尾根に沿うようになると，登山道の折り返し毎に展望が開け，松本方面から南アルプスにかけての山々が展開する。登山道が伐採地の上部を斜上し，最後に180度折り返すと鳩ケ峰からの稜線に到着する。途中に岳沢泉の標識があったが水場は枯れていた。稜線からは木の間ごしに穂高連峰が望むことが出来る。

ルートは南西方面に変わり潅木の中の緩やかな登りが続く。再び針葉樹の原生林に入ると，旧道との分岐となり新道は直進し，急坂を喘登すると槍見平の標識があるが，樹枝に遮られ槍ケ岳は見えなかった。緩い登りに変わると，突如として明るい高層湿原に飛び出す「権現の庭」という。箱庭の様に小さな湿原で，この季節ではワタスゲだけが白い穂先を揺らしていた。「権現の庭」



を過ぎると左手にプレハブの避難小屋がある。整備が行き届いており，毛布から石油ストーブに燃料，非常食まで完備している。荒される様なことも無いらしく，大事に使われているのは嬉しいかぎりである。ここから頂上は一投足である。

明るく開けた一等三角点の頂上は芝生に被われて，各村の方向に向いて小さな祠が奉ってあった。昔，麓の松本平の村人達は日照りが続くと，戸隠神社や諏訪神社に雨乞祈願をした。それでも雨が降らないときは，最後の手だてとして千人にも及ぶ大祈願団を組んで鉢盛山に雨乞祈願登山を行い，山頂で大かがり火をたいて二晩三日の野宿をして雨乞祈願をしたという。柔らかな秋の日差しに照らされた小さな石の祠にも，悲しく苦しい歴史が刻まれているようだ。頂上北西の反射板の広場にでると，錦繡の山々を従えた穂高連峰，乗鞍,御岳などの一大パノラマが展開する。いつまでも立ち去り難いほどで。心ゆくまで景観を楽しみ，登山口の林道に降り立ったときは，もう日差しは木々の影を長く延ばし，谷の奥はもう薄墨色に煙っていたが，逆光に美しく映える紅葉が短い秋の一日のフイナーレを飾っていた。

満足した山の後はのんびりしたい。いつのまにか翌日の予定は美ケ原に変更になってしまっていた。朝日村から松本まで走る間に日はとっぷりと暮れ，市内のレストランで豪華ディナーを楽しんだ後，美鈴湖からの林道を美ケ原駐車場についたのはもう21時を過ぎていた。管理棟の陰に風を避けて幕営，ひとしきり林道の鍵談議で大笑いしたおかげでぐっすり快眠できた。

山の夜明けは早い。薄暮の中，東の空だけが黄金色に染まり，やがて雲海に浮かぶ北アルプスの山々がモルゲンロードに輝く。厳粛な山の朝の一刻。みんな黙ってみつめているだけである。

十月ともなると標高2,000ｍでは相当冷え込む。早々にテントを撤収し，霜柱をさくさくと踏みながら，美ケ原頂上の王ケ頭に向かう。王ケ頭の展望台は人でいっぱい。素晴らしい景観にアマプロ様々のカメラが朝日に輝き，あちこちで溜め息が聞こえる。それにしても昨夜はみんな何処に泊まっていたのだろう。建物の裏手で訪ねる人もない王ケ頭（2,034ｍ）の三角点からは，眼下に指呼の間隔で一等三角点武石峰（1,973ｍ）がこんもりと膨れて見える。

武石峰は美ケ原林道のほんの脇であり，林道から遊歩道を十分で登れる。頂上は一面の草原であり，見渡すかぎりの景観は文句無し。ケルンに半ば埋まった石仏が一体，所在なげに遠く諏訪湖を見下ろしていた。

完全舗装の松本への美ケ原林道とわかれ，地元で教えてもらった扉温泉への近道という荒れた林道を下る。こんな道をバスが走れる訳もないのに松本電鉄専用道路とあった。途中の三城牧場で山荘ピリカの看板を見付け思わず車を乗り入れてしまう。昭和33年に初めて美ケ原を訪れた。当時は美ケ原にはドライブウエーもなく三城牧場からの登山が主径路であった。その時，泊まったのが新装なったばかりの山荘ピリカで，牛乳風呂には感激したものである。40年近くの歳月に周囲の景観は覚えていなかったが，赤い三角屋根にモダンな煙出しだけは記憶にあり懐かしい。

大きな犬小屋があり覗いていると，女主人が「犬は今出かけています。そのうちに帰って来ますので，まあ上がってお茶でもどうぞ」とすすめてくれたが，犬に会いにきた訳でもないので固辞し，扉温泉に急ぐ。紅葉に囲まれた扉温泉の真昼の露天風呂は，秋ののんびり山旅の締めくくりとしてふさわしいものであった。

【参加者】　古市昌三　方山宗子　大槻雅弘　岡田茂久

【時間記録】

（10月14日）　京都ＩＣ（5:30）＝ 塩尻ＩＣ（9:10）＝ 朝日村（9:30〜9:50）＝ 岳沢入登山口（10:40〜10:50）… 岳沢泉（12:05）… 稜線分岐（12:15〜12:30）… 権現の庭（13:00）… 避難小屋（03:05）… 頂上（13:15〜14:40）…稜線分岐（15:15）… 登山口（16:00〜16:20）＝ 朝日村（17:10）＝ 松本（19:00〜20:00）＝ 美ケ原王ケ頭駐車場（21:00）

（10月15日）　美ケ原王ケ頭駐車場（7:00）… 王ケ頭（7:20〜8:30）… 武石峰（9:15〜10:00）… 三城牧場（11:30〜12:30）… 扉温泉（13:30〜14:30）… 岡谷ＩＣ（15:30）

【第２０５８回例会】

古稀登山　湖北の山　己　高　山　三等 922.6 m

津　田　　実

日本山名辞典に依れば，滋賀県伊香郡木ノ本町東浅井郡浅井町との境，北陸本線木ノ本駅の東北東6㎞，標高923ｍの県境の金糞岳から南西に派生する尾根上にある。

山頂直下に己高山鶏足寺跡があり，大正時代まで開帳時には露店が並ぶほどのにぎわいをみせたといわれる。寺は現在山麓に降ろされ，忘れ去られている。

頼綱「ころもでに余呉の浦嵐さえざえて己高山にゆきふりにけり」とあった。

湖北地方には忘れられた古刹が多いが，この鶏足寺も，そのひとつかも。そのような由緒ある寺院を擁する己高山は我が京交山岳部の長老四氏の「古来希れの長寿を祝福する」に誠に適切な山と覚える。

10月22日壬生に集結した精鋭十数名，数台の車を駆って木ノ本町古橋集落の興志漏（よしろう）神社の右横から林道に入り二つ目の分岐を過ぎると右側に「己高山登山口」の標識を見つけ，車を止める。暗い杉林の中に付けられた登山道は幾多の人たちに踏み固められてか歩き易く，ツイ調子に乗って歩き過ぎ，送電線鉄塔下（標高約200ｍ地点）で後続者を待つ。所々に「がんばれ」「すぐ展望所」等の看板が吊され，小学校三年と書かれている。子どもでも登っているのに負けてはいられないと頑張ってゆくと右側に切り開きがあり，近江では古いと言う六地蔵さんが優しく迎えてくださった。

雑木林を登ってゆくと右側が開けて琵琶湖と竹生島が見え，前方に「牛止め石」の標識があったので一本立てる。重荷物を背負った牛がこの石は越えられなかったのだろう。これから道は緩

やかになり広い台地にでると鶏足寺跡だった。折よく道の整備に来ていられた土地の人にお寺の謂れを教えて貰い，山腹を巻いて支尾根に出ると「己高山頂上」の標識が物凄い急坂？に建っていた。木立に縋って匍い登ると笹原の広場？の中央で三角標石が何を愚図々々しておったと迎えてくれた。

全員揃ったところで万歳三唱，記念品（携帯用サブザック）を贈り四氏を囲んで記念写真を撮り，返礼に頂いた缶ビールで乾杯し細やかな祝宴に移る。今日は皆さんが作ってくださったブタ汁をありがたく頂く。時期は秋，好天とはいえ気温はさほど上がらないがなぜか体はほてる？滞頂約1時間。下山路は急坂を避けて途中から巻き道を取る。六地蔵のところから谷間に下る道はあまり人が歩いてないのか荒れていない。その歩き易い道を下ると林道の終点に出た。数分の歩行で駐車地点に着くことができた。帰りに興志漏神社の奥にある己高閣へ立寄り由来を聞き古稀山行を無事に終える。

ご参加の皆様，記念品賛同の方有り難うございました。

【参加者氏名】

（主　賓）　石田和男，河村　清，坂井久光，山下周道
奥村弘信，坂田利春，横井襄二，今井勇一郎，森本清一，渡辺智生，三橋　勉，
原田加津子，大槻雅弘，大倉寛治郎，津田　実

【記念品賛同者】

中村繊源，鷲見敏一，鷲見寿未子，木原　滋，古市昌造，井戸澄夫，田村正弘，
岡田茂久，山元誠一，方山宗子，篠田勝美，吉田　武

【コースタイム】

壬生 7:10 → 東ＩＣ 7:25 → 木ノ本ＩＣ 8:45 → 登山口 9:25 → 五合目（六地蔵）
10:15 ～ 10:25 → 牛どまり 10:45 ～ 10:50 → 鶏足寺跡 11:15 → 山頂 12:05（昼食）
13:26 → 鶏足寺跡 14:05 ～ 14:15 → 分岐点 14:30 → 林道 14:50 → 登山口 15:02
→ 駐車地点 15:05 →（出発）15:15 → 己高閣 15:30（解散）

【メ　モ】

鶏足寺は奈良時代（668年～749年）の創建とされているが，廃されて久しい。寺跡であった村人の言に依れば付近の山道を整備して回遊路を作るとか。また，宿泊設備も建てられるそうである。

古稀登山（己高山）御礼

今回（2058例会 10月22日 己高山）私の古稀を祝して山行を企画していただき，多数の（15名）の方に参加をして頂き又，山頂にては記念品まで賜り誠にありかどうございました。

己高山は以前より登りたく思っていた山でしたので念願がかなえて嬉しく思います，その上好天に恵まれ楽しい山行でした。

今後も自分に合った山行を続けたいと思っておりますので，今後ともみなさんのご指導ご鞭撻をお願い致します。

本誌をお借りして厚く御礼申し上げます。

平成7年11月10日

乙丑の男　河　村　　清

山岳部員各位　様

御　　礼

山　下　周　道

此の度多数部員の方々から己高山山頂に於いて身に余る古希の御祝いをいただきまして誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

京交山岳部創立45周年という輝かしい歴史を持つわが山岳部に今思えばその流れに溶け込んで自分なりの山活動をしていかなければならないのに残念ながらその流れに溶け込めず山行よりも病院生活の方が多いという呆れた道筋でありました。

腎臓炎・椎間ヘルニヤ・痛風・脳梗塞と書けば何一ついいものは無いこの様な病何故かくも次々と襲いかかるのかと，それは常に自分の健康に対する考えが間違っていた不養生のあらわれだったと思っています。

この様な浮き沈みの多い道中，幾度も山行はもう無理と断念したことでしょう，だが山仲間の暖かい友情に励まされ今日に及びました。そうしてここに無事古希の祝いを受けられました事はみなこれ皆々様のお陰と心より有難く感じ重ねて厚く御礼申しあげるしだいです。今後共に何かとお世話になると思いますが何分よろしくお願い申し上げましてまずは御礼の挨拶にかえさせていただきます。

【第２０５９回例会】

初瀬山，竜王山

横井襄二

気象上の特異日となっている11月３日，今年も好天に恵まれ古都奈良の山に向かう。近鉄に乗車八木で乗り換え長谷寺駅にて下車，電車は混んでいたがボタンで有名なこの駅もシーズンオフのためか下車したのは８人程だった。

初瀬山のコースは町の中を通るが長谷寺には寄らず寺の西側の尾根を登るべく取付きを探すが分からず，地元のおばあさんに尋ねたが違った道を教えられた。西に寄り過ぎているので不審に思ったがそのまま行くと朽ち果てた火葬場に着き行き止まり。未だここには用が無いとばかりすぐ引き返し東の尾根に取り付く。急な登りを少し行くと長谷寺の西側の上にある広い墓地に出る。ここで老夫婦に出会ったので初瀬山について聞いたが先に会ったおばあさん同様全然知らないし，又関心も無いようだ。万葉集にもある初瀬の響きはもう忘れ去られてしまったのだろうか。

墓地を出ると山らしい道になるが植林された４，50年位の桧林のため展望は殆ど無い。頼りない踏み跡をたどって登ったがこれも間違ったようで又引き返す。東に細い踏み跡がありやっと正規の道に乗ったようだ。覆いかぶさる草をかき分け細い道を右の山を巻く用に進むと白河からの道に出会う。ここからは尾を登る。出会う人も全くなく桧の植樹林が続く。途中から初瀬山の北側を巻くようになり東にやや視界が広がった場所に出る。この辺りが初瀬山の下になるのだが山頂に通じる道が無い。ふと木の枝にぶら下がった板を見つけると，やっと判読できる〝面白くないヤブ山コース〟と書いたのがあった。ここからほんのちょっと登ると初瀬山頂に着く。標高548m（三角点無し）。杭があるだけで，思っていた初瀬山のイメージとは程遠い。展望も殆ど無くすぐ下の道に下り昼食。この場所だけは展望がひらけ東に小春日和に輝く初瀬ダムや遠くの山々が遠望できほっとする。

竜王山への道はこの辺りでは左右に植林された案外と広い道で，多少の起伏を越えれば林道に出，少し行くと舗装された山間部に似つかないよい道路に出る。ここを西へ少し行き右折して小高い山を登りきると一転して南に面した明るい非常に広い畑地に出る。こんな所にと，ちょっと異様な感じがする。

ここを縦断して北に向かい竜王山に向かうが地図にある杣道が途中で忽然と無くなる。今度は意地でもと，地図どおりヤブに挑戦20数分で通り抜け上の道に出る。勾配もきつく倒木もあり見事なヤブだった。緩い登りを更に西に行くとほどなく竜王山頂に着く。標高586ｍ。二等三角点の標石は広い山頂の真ん中にあった。展望は西に奈良盆地，金剛山等，北に天理，三笠山も見えるが何故か強風の中で霞みかかっている。

風が強く気温も下がって来たので下山する。このコースは表になるので道標もあり整備もされている。山頂から少し下がった所から間伐材で作ったのか美しい階段が蛇行状に続く，一瞬ドミ

ノを連想させる構図が面白い。階段が途切れると岩が露出した下り道になり中程まで下ると木立の中に竜王山古墳群がある。円墳と横穴古墳が600基程あり未だに調査は殆ど行なわれていないようで道中には20基程が左右に見られる。どのような豪族が築造したのか歴史の深さを感じさせられる墓地群である。左に川を見ながらなだらかな道を下ると山野辺の道に出，すぐ崇神天皇陵に着く。夕日を浴びた池が一際美しい。ここから上長岡（かみなんか）よりバスに乗り天理駅経由で帰洛する。

【参加者】　奥村弘信，横井襄二

【コースタイム】

京都 7:44 → 長谷寺駅 9:05 → 長谷寺駅 9:25 → 白河よりの交差点 10:47 → 初瀬山 11:37 → 昼食 11:50〜12:40 → 舗装道 12:53 → 舗装道分かれ 13:00 → 広い畑地 13:10 → 広い畑地抜ける 13:25 → 竜王山 4:08〜14:16 → 古墳群 15:00 → 御陵 15:50 → かみなんか 16:20 → 天理 17:40〜18:34 → 京都 19:40

四 国 「剣山」と「石鎚山」

梅津　吉 田　武

山頂での御来光と言えば伊吹山の夜間登山やアルプス登山，又は山頂に宿泊施設のある山が比較的御来光の機会が多い。

10月17日

非番の日9時に京都駅に待ち合わせて名神から神明道路を通って明石から岩屋に行こうと思ったが，17日早朝6時すぎに天王山トンネルで交通事故・・・　9時になっても開通しないのでR171号より茨木ＩＣに乗ろうと思ってルート変更したが，どこの道も混雑している。12時すぎにやっと茨木ＩＣに乗りしばらく走ったが尼崎にてＲ２に降ろされる，仕方なく混雑している２号線を明石まで走った。

16時55分のフェリーに乗って岩屋について津名ＩＣより鳴門大橋を渡って貞光町から見の越登山口についたのが，20時30分になっていた。

山頂小屋に電話して宿泊をお願いすると，「夜遅くまで起きている」と言われたので登る事にした。

途中で１ケ所だけ間違いかけたが，１時間20分で小屋についた。

風呂を浴びて早々に就寝した。

10月18日

御来光の時間は6時08分なので間に合うように起床して小屋の裏手に登って御来光を待った。

紀伊半島の熊野山系より右方からいよいよ登って来た，雲海の中に鮮やかな光がさした，思わず手を合わして拝んだ。

小屋に帰って朝食をすませて次郎笈に行くシコクザサの茂る稜線通しに歩きやすいコースを次郎笈に登り，鞍部より剣山をトラバースして名水百選「御神水」をいただいて快適に見の越まで下った。

見の越荘にて富有柿を3個もらって見の越を後にR 439をかずら橋からR 32を大豊町，そして渇水で有名な早明浦ダムのサイドを通ってR 194に出て15㎞も走ると寒風トンネルについた。

紅葉見物に多くの車が駐車していたが，我々は先を急いでいるので間を逢って瓶ケ森林道を走る。悪路がこれ程続くのも珍しい。標高1,100ｍから1,700ｍ位まで登っている林道で伊予富士，瓶ケ森の横を通過してやっと土小屋についた。

頂上白石小屋に電話して宿泊の予約をする。16時半に土小屋を出発，1,492ｍ（イヨノクニ）の標柱を後に少しだけ車道を歩いて登山道に入る。

紅葉の美しいコースで石鎚山から延びる尾根につけられているので快適に登る。

所々にシコクザサと紅葉のコントラストが非常に美しい。

1時間20分程歩いたら足元も暗くなったのでヘッドランプを出して登る事にした。

成就社登山道との合流点からは鎖場の連続で非常に急登である。頭の上に小屋の灯が見えている。

最後の階段を登ってやっと小屋についた。

宿泊料7,000円を支払ったらすぐに食事が出て来た。山の食事にしては大変良かった。ビールと酒で乾杯して明日の御来光を期待して早々に寝た。

10月19日

5時40分頃に起床して出てみると天気が悪くガスが沸いて来て視界が悪くなって来たので小屋で少し待っていたらガスも晴れて6時10分を過ぎると雲の間より太陽が顔を出していたが又，ガスが沸いてきたので小屋に戻って少し待っていると又，天気が良くなったので天狗岳まで往復する事にした。

鎖場からやせ尾根，そして逆層の岩登りと変化に富んで楽しく1,982ｍの上に立った。

足元は切れ落ちているが眺望は最高。

北東には瓶ケ森，東には伊吹山と岩黒山，南には面河山と一等三角点のある二ノ森と十分に景色を楽しんだ。

小屋に戻って朝食をすませて早々に下山する事にした。

途中で登る人と挨拶を交わして9時半に土小屋についた。

着替えをすませて帰路につく。面河村より面河ダムを越えて川内町よりR 11を走り伊予小松ＩＣで高速に乗って瀬戸大橋（6,490円）を渡って姫路ＩＣから播担自動車道から福崎ＩＣより京都まで帰った。

【参加者】　吉田　武　他2名

飛騨・越中五箇山の山旅

坂　井　久　光

10月7日に山崎大造さんに誘われて北陸自動車道を走り，福井ＩＣで出て，大野経由九竜頭ダムの穴馬スキー場に立寄り白鳥に出て国道156号を北上，蛭ケ野を越え牧戸で右折して高山市へ。その夜は呂瀬スキー場を訪れてから鼻駒峠に行き車中泊。

翌8日快晴で近くの国見山1,318ｍ三等△に登り紅葉しかけた樹海を望め静かな山頂に立って喜びを分け合った。

下山後呂瀬（ロッセ）スキー場に立寄りパンフをもらったりして南の十二ケ岳へ向かった。

呂瀬とは変わった名の地名だが，下呂は下溜（だまり）を音読したのが訛って下呂（上呂・中呂とある）となったとか。溜瀬の音韻の変化でなかろうか。

十二ケ岳は乗鞍に向かう街道の瓜田から林道が頂上直下を巻いて八木原牧場へ通じており，針葉樹林の急坂を汗をかいて登ったら社や小屋・展望台・方位盤があり，展望360°で北アの連嶺が一望出来，北に大雨見山や国見山が見晴らせるよい山で標高1,327ｍ三等△が近くにあったが欠損して塵があり粗末な姿だった。

その角は高山市の匠の森で一泊。

9日は松倉観音の南側を通て新設の林道を走り三日町へ越す峠の手前で駐車して源氏岳へ登った。小谷から支尾根に取付き境界尾根を辿って一部藪があったが道跡があり展望はなかったが五葉松・ブナ・水ナラの林で標高1,143ｍ二等△であった。下山は駐車場の見える谷筋（植林地）を通り下山。その後高山市に戻り，秋祭の山車を観光したり，味のフェステバルを見たりしてその後国道41号を通って岐阜経由米原から名神に入り帰洛した。

12日山形氏から兼ねて五ケ山の猿ケ馬場の三角点へ新ルートから登ろうとの約束があり名神草津で待ち合わせて五ケ山の山崎富美雄氏へ行き，鳥取から来たガイドの田中良一氏45歳と合った。彼は5月にも来て私と会った人だ。

その夜は4人で日本百名山のビデオを見て楽しい夕食をして明日は大笠山へテントで2泊して笈岳にアタックするとか，又大笠平も探訪するとか，　猿ケ馬場は延期となった。

私は3度目の大笠で皆と付き合うこととなった。翌13日テントと食料を分担して車で廃村桂の境川ダムの登山口で駐車，橋を渡りいきなり梯子と急坂の登り。途中2回休んで前笈岳に11:45～12:30登頂。昼食休憩後避難小屋13:30～14:40。この間小屋の少し上手の登山口から右手の谷に下り良い水場を発見。下り5分上り8分位。

山崎さんは早速下口に標識をつけ，切開を鋸と鉈で作って登山者の利便をはかった。

大笠山へ15:15着，周辺の風景や展望を満喫しテントを張って楽しい夕食，後金沢の夜景を見下ろし満天の星を眺めて就寝。

13日6:40出発，大笠平へ向かって出発。大笠池7:15～30細長い小池で神秘な感が漂っていた。

その後，大笠平に下り谷間を西へ涸谷を通り錫杖岳へ突上げている谷を探した。出合を下り過

ぎ引返したりして小谷を登り，小尾根を越えて次の谷を西へ下って遂に登路と見当つけた急峻な小谷の出合に12:00～15到着。良い谷で滝もなく水は間もなく涸谷となり45分で錫杖岳直下の稜線へ13:10～25。笈岳へ藪の尾根筋を下って又登り，笈岳へ14:05～40。

昭和42年8月に今西博士一行と登って久しく二度目の登頂で感無量。一同新ルートを開拓した満足感で一杯となり感激の握手。山形氏は下の出合で別れて一人鞍部に登るコルの谷をつめて大笠山へ先に帰ったので三人で感激の握手。小休後下山開始となったが，藪がひどく宝剣岳16:10～15。最低コル17:00。藪がひどく日が暮れて疲労とあせりでコルの上のコブでリングワンデルをしたり，途中山崎さんが持病のゼンソクの発作で吸入器を取出して吸入したりして，ヘッドランプの為足下が暗くつるや木の根や横枝に足をとられたりして，難行苦行の末20:45大笠山着55出発，山小屋22:10。（途中水場で水汲）山形氏は14:00大笠山。先に山小屋に下山就寝中だった。22:00夕食後就寝。

14日7:55出発。前笈山9:15～50。大桧10:30～50，桂11:55～59，12:25～15:30上梨，田中さんと別れ，昼食後山形さんと二人で三日町で野営。15日6:43出発，8:05～20森茂林道終点駐車。林道を歩き昭和42年11月泊まった森茂も廃村となり家跡もなく白山神社跡の碑が立つのみ，一面の薄原で田畑や宅地の区別もつかない。

廃村の尾花の原や宮の跡　　翠峰

崖崩れや草の茂で林道も途切れ，二の谷出合で橋も落ち駐車，三の谷出合に9:20～30。

谷を渡り踏跡を辿って杉の植林地を登り，古い登路に出合い尾根筋の雑木林の紅葉の中を快適に登り13:25～14:00御前岳一等三角点1,816ｍに登頂。山形氏は普顕岳の他は一等三角点百名山を完登したことと本州の一等三角点の一部離島を除いて完登したことになる。二人で万歳三唱。感激の握手。山頂は低い笹原で三角点の他めっこ山岳会の登山標柱があるのみ。

展望360°で北アや御岳・乗鞍，白山，猿ケ馬場，大笠，笈岳が一望出来る。パイ缶で乾杯。往路下山，三の谷出合16:05～10駐車場17:00泊。16日6:52出発。12:45～13:11草津バス停留所。

中国・九州の山旅

坂井久光

10／25 山崎大造（京都山の会）さんの誘いがあり，25日夜竹田駅出発。車で中国高速道を走り，その晩は院の庄ＩＣで下り，奥津温泉で入浴後車中泊り，26日6:55出発，上斉原林道から三ケ上1,062ｍ三等△に登頂，展望絶景。日本千山に入る名峰，山上に役の行者像があり，次いで恩原スキー場に立寄り，人形峠を越え蒜山原を横断して，江尾－根雨を経由，道後山の西麓を越え庄原市を通り，中国自動車道に入り，千代田ＩＣで出て，その晩は大朝町の山中で泊り，27日大朝スキー場を訪れ，次いで細見（芸北町）に出て，板村経由－兵山家山962ｍ二等△を登り，

下山後，隣の冠山1,003ｍ三等△を登り，下山後掛頭山麓のスキー場を訪れ，その後国道を南下，戸河内町に入り，湯来温泉に入浴。夕食後，東郷山麓の和田の登山口で泊。28日木の階段の国体コースを急登ピークを2，3越え，東郷山977ｍ二等△に登り，東の道を下ったがブナや杉の原始林があり，大きな猿の腰掛を見付け土産に，又4本杉の大本があり，よい山であった。林道に出て砕石場を通り駐車場の登山口へ，車で国道を南下して甘田町に出て2号線を走り，錦川沿いに国道を溯り，夕刻一等三角点研究会の集合地錦グリーンホテルに到着，京交の大倉・三橋・武田の諸氏が到着しており，旧知の会員多数が来ており，再会の喜びにひたった。三谷会長の挨拶後祝宴が始り歓談後各自部屋で飲んだり就寝したり。翌29日車に分乗して松の木峠から登り，紅葉の山道を登って山頂1,339ｍの一等△に登頂，一同22名感激の万歳三唱，恒例通りセレモニーを終り，昼食休憩後山口県の最高峰寂地山1,337ｍへ縦走，リーダーの地元（山口）林・伊藤両氏の元に下山して近道をとったが，下り過ぎて大廻りして県境の道に出て寂地山に登って解散した。　私達は下山後車で中国自動車道六日町ＩＣに行き九州の小倉ＩＣで出て足立山の麓で入浴，夕食後一泊。30日足立山へ10時登頂一等△598ｍ登頂，砲台山もついでに登り，国道を南下して田川市を通り，三群山下の茜スキー場を訪れてから太宰府町の宝満山の一の鳥居に行き泊。30日宝満山869ｍ三等△へラカン道を通って登り，次いで社のあるピークを経て天狗道を下った。

二日市の温泉で汗を流して，南の基山405ｍ一等△本点へ。此所は白村江の戦いで敗けた天智天皇が敵に備えて山城を築いた処で碑があり，又祠があった。草原で展望良し，次いで村人の疫病を救おうと一万部の法華経を読誦したが，白狐が化けた美女に狂わされ，九千部で死んだとの伝説がある九千部山848ｍ二等△へ登ったが草原で展望良し，無線塔が立つ。

南へ峠を越え鳥栖（トス）市の山崎さんの友人大久保憲一氏の三鷹精工K･Kへ。氏の案内で電子部品のプラスチック加工機の全自動機器の工場を見学，一機数千万円とか。又機械の製図室も見学し，夕食は久留米の料理店，寛永通宝で店長河津氏はオムレツにケチャップで上手く絵を書き，店は大繁盛。料理も安く，酒も品ぞろいで甘い。その夜は鳥栖のホテルで一泊。

11／1　翌朝2時頃出発。吉野ケ里古跡を見て，北の背振山1,053ｍ二等△へ，粉雪が降る寒い日だった。次いで北麓を走り雷山スキー場を訪れ，次いで九州自然歩道を通り，雷山955ｍ二等△へ。展望絶景。玄海灘や，平戸島・長崎・佐賀の山々，西に金山・背振山が見えた。次いで北へ前原町経由芥屋大門を観光して可也山365ｍ（日本千山）を登り，長野峠の近くの施設前で泊。

11／2　長野峠を越え古湯経由，一等三角点百名山の天山1,048ｍへ，麓の天山スキー場に立寄ってから登った。Ｓ.56年11／2に登ったから丁度13年ぶりだ。

午後黒髪山（日本千山）へ。大川内町と有田町堺の寄岩怪石の山で，麓にキャンプ場があり，雄・雌岩を通り，梯子や鎖場のある岩峰が頂上，516ｍ位か。次いで武雄市に行き，温泉に入り汗を流して夕食後武雄神社下で泊。

11／3　天然記念物の大楠，根元は空洞だが，周26ｍ，高サ27ｍ，樹齢3,000年を見て後の御舟山へ。此の山も岩峰で山頂に祠あり，次いで西へ有田町経由，里美町の宇戸越を通り，石倉から隠居（カクイ）岳二等△670ｍへ登り，次いで西の烏帽子山スキー場を訪れてから西の山頂三等△568ｍへ，直下は公園で展望良好。その後南下して虚空蔵山へ向かったが，林道が普通の為途中迄登ったが

時間切れで，嬉野経由武雄で入浴後泊。

11／4 早朝出発して五ケ瀬スキー場へ，午後祇園山二等△1,307ｍを大石越から登ったが，登山口に西南の役に陣地があった旨の立札あり，道も完備していた。展望良好。その夜はあまごの里で夕食後岩戸神楽を鑑賞後泊。

11／5 近くの77ケ所のある冠山を登った後，高千穂町経由日の影町に行き，北の見立渓谷経由傾山二等（千山）へ向かったが，時間がなく杉之越経由三重町を経て別府港に行き，関西汽船に19時に乗り，翌6日朝大阪南港に上陸，無事11日間の山旅を終った。

【個人山行】

第34回 全日本登山体育大会報告

津田　実

全日本登山体育大会に数回参加したが，何れも主管県の並々ならぬ御努力に依り有意義な山行をさして戴いている。

今回は香川県小豆島の星ガ城山Ⅰ三角点816.6ｍである。案内書に依れば，『むかし，応神天皇が岩と岩に鈎をかけて登ったことから鈎懸山と名づけられ，〝神懸〟（かんかけ）となり，さらに寒霞渓となったといわれる』とあった。

草壁港に集合した総勢250余名，ＡＢのコースに分かれて寒霞渓の頂上をめざす。草壁の街内を抜けて登山道に入る。

登山道といってもコンクリート舗装された道で一般の登山道と勝手が違い，更に所々に馬糞が落ちているのに戸惑う。ロープウェイの乗り場，紅雲亭で小休止。

登るにつれて周囲に怪異な岩峰が姿を現し感慨一入。その岩峰の名称がまた難しい。「玉筍巌」「蟾除巌」等，部員諸賢はどのように解されるか？。奇岩・怪石の間を縫って岩峰の上に立つと其処が四望頂である。

ロープウェイ駅周辺の雑踏を後に星ガ城山に向かう。阿豆枳神社，鳥居脇に三角点を見つける。此の付近より本来の登山道に成って三笠山を左に送り，更にゆくと空濠や井戸の跡が散見される。何でも南朝時代に佐々木信胤と云う武将が城を築いて立籠ったとか，その武将を祀る星ガ城神社を左に送り，小さなお宮の上部に巨大な蟻塚のような狼煙台があり，前面は素晴らしい展望で，手前に草壁港，その向こうに見えるのは四国本島かも。パーティの全員が展望を楽しんでいる間に狼煙台後方の草陰げに潜む一等三角点標石をカメラに収める。

山頂から太陽の丘への下りは自然林の中につけられた一筋の踏跡を香川県連の方の誘導で降り，自然石に俳句が彫られた歩道を抜けると太陽の丘である。前方にギリシャ風の神殿と平和の鐘の

塔があり，平和の神を祭る，峰俐富神社とか。此処も観光客が犇めき，我らの願う心の平安とは程遠い。

ドライブウェーを下り，14番の札所，清滝山ご本尊の地蔵菩薩に平穏な黄泉の国へのお導きを願い参道を下る。

此の道は現世の苦難の救済を願う幾多の巡礼が歩いた道か，路傍に石仏や石標が見られた。歩き易い道をどんどん下って前方に粟原ダムが現れるとコースの終点で迎えのバスが待っていた。

登山体育大会のためにご尽力くださった香川県岳連の皆様，ありがとうございました。

尚　香川県連会長の言に依れば，「三角点の標石は小豆島産」とか，標石の頭を撫でるたびに小豆島を思い出してほしい。と，言っておられました。

【参加者】　大倉，三橋Ｆ１，原田，津田　　天候 晴れ

【コースタイム】

草壁港 8:55 → 紅雲亭 10:00～10:10 → 四望頂 10:45 → 園地 11:10
（昼食）12:15 → 山頂 13:02～13:14 → 太陽ノ丘 13:38～13:45 →
清滝山 14:45～15:00 → ダム 13:35

「京都府の山」52山完登の記

大　槻　雅　弘

1993年秋のこと。

なんやかんやで，忙しい忙しいと言っていた時である。京都新聞社の木下氏から山と渓谷社から「京都府の山」の本を出版するので，京都の山に詳しい人を紹介してほしいと，電話があった。

京都の山のことならば，まず頭に浮んだのは我先輩の坂井久光氏である。次に「山のスケッチ百山紀行」等本を出しておられる京都山友クラブの内田嘉弘氏が浮び２人を紹介した。

木下氏は，出版について相談したいので坂井，内田両氏と一緒に合ってほしいと連絡してきた。

私は，最初から忙しいので書けないからと言っていたが，話しの結果，４人で執筆しようということになってしまった。そこで，書く条件として分担する山は京都近郊の山を優先に選ばせてもらうことで３人に協力し，52山を４人で均等に１人13山を分担執筆することとした。原稿を書き出してはみたものの，〆切日までどうしても私事，仕事で忙しく，私は８山のみ書いてあとは他の人にまかせることになってしまった。

そして，今年6月1日約束通り山と渓谷社から分県登山ガイド「京都府の山」52山が出版された。原稿が本になり，全国版で発売されることは嬉しいことだが，写真も含め執筆となると，それはそれで素人の私には大変な作業であった。

プロの山渓から出来上がった本は，いつもの「京交山岳部報」の活字と違い，カラーということもあって，自分の写真と原稿が何か自分のものでないような気がした。

前置きが長くなったが「京都府の山」が発行された6月1日時点で，私は田辺の甘南備山217mと，丹後半島の真中にある金剛童子山613mの2山を残し，既に50山は登っていた。

そこで，私なりに出版を記念し，今年中に52山を登り終えようと思い，残った2山のうちまず甘南備山へ9月17日の昼から，前日の台風の影響のあやしい空模様の中を2歳になった愛犬バウを連れ217mの山を散歩がてらに登った。低い山だが展望台もあり愛宕山，北山，比叡山，音羽山と見晴らしのよい山であった。おまけに三角点は二等であった。

次に，11月4日金剛童子山へ。これ又愛犬と共にテントを持って丹後半島へ出掛けた。近道と思った道が思わぬ悪路で苦労し，やっと細川ガラシャ幽閉の地である登山口の味土野に自宅から5時間程かかって着いた。山は，1時間余りで登れ，山頂には行者堂があり，中には役行者木像が祀られていた。三等三角点からは日本海が望め，52山最後の山が海が見える山ということで印象に残った。

その夜は，スイス村でテントを張った。

私の52山最初の山は中学1年の愛宕山であった。今年53歳の金剛童子山で登り終えたということは，ちょうど40年かかったことになる。中学時代から思うと，思いもよらぬ山好になり20代は岩や雪，30代は沢やヤブ山，40代以降はヤブ山に山スキーと年を重ねる程のめり込み，その上本まで書くことになってしまった。お蔭で勉強にもなったし，私の登山歴の中で一の節が出来て喜んでいる次第である。

1993.11.12

例会報告

例会 No.	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
2045	苗場山	9月14日 ～16日		大倉寛治郎	坂田，森本 他4名	（別稿詳報）
2055	伏見山710.1m	10月7日	晴	大槻　雅弘	岡田，今井，方山， 津田，他1名	（別稿詳報）
2056	鉢盛山	10月14日 ～15日		岡田　茂久	古市，方山，大槻	（別稿詳報）
2057	鈴鹿山脈 綿向山1,110m	10月21日		馬淵　拓巳	古市，方山，大槻	都合により中止しました。
2058	古稀登山 （湖北の山） 己高山922.6m	10月22日		奥村　弘信 大倉寛治郎	石田，河村，坂井， 山下，坂田，横井， 今井，森本，渡辺， 三橋，原田，大槻， 津田	（別稿詳報）
2059	初瀬山　竜王山	11月3日	晴	奥村　弘信	横井	（別稿詳報）

部員動静

目的地	月日	天候	参加者	記事
四国 剣山と石鎚山	10月17日 ～3日		吉田　武 他2名	（別稿詳報）
飛騨・越中 五箇山の山旅	10月7日 ～16日		坂井　久光	（別稿詳報）
中国九州の山旅	10月25日 ～ 11月6日		坂井　久光	（別稿詳報）
第34回全日本登山体育大会	11月3日 ～5日	晴	大倉寛治郎 原田加津子 津田　実 三橋　勉 F1	（別稿詳報）

雑　　報

△△△　11月の集会

日　　時　　11月10日（金）18：40 ～
場　　所　　厚生会館　４Ｆ　大教室
出 席 者　　（本局）　岡田，大槻，方山，山岡　（高速）　大倉　（梅津）　吉田
（ＯＢ）　河村，津田，渡辺，三橋，坂井　以上11名
内　　容　　例会報告ほか

△△△　10月の企画運営委員会

日　　時　　10月25日（水）18：30 ～
場　　所　　厚生会館　４Ｆ　大教室
出 席 者　　井戸，吉田，奥村，三橋，馬淵
内　　容　　例会予定，岳連関係報告ほか

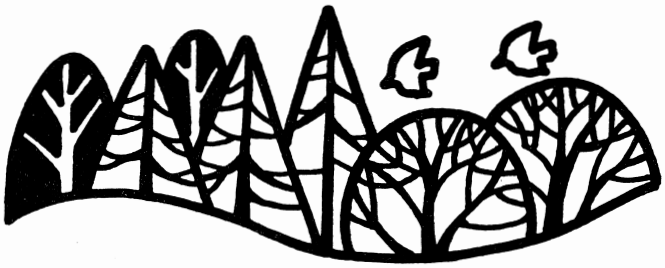
△△△　他山岳会の会報（受贈分）

10 月 号　　比良山岳，わっぱ，北山
11 月 分　　京都山岳，北山，趣味の登山，木雞，山友，青嶺，一等三角点，近畿山行

△△△　お知らせ

平成８年１月の集会兼新年会のご案内

日　時　　平成８年１月９日（火）18：30 ～
場　所　　松尾橋西詰下る「網船小島」
会　費　　3,000円（当日徴収）
担　当　　鷲見（643-3391），井戸（822-9175内810），山元（822-9106内506）
備　考　　参加者は平成７年12月中に担当者までご連絡下さい。



家庭用品
衛生用品 } 総合卸商社

日華商事株式会社

本　店　京都市南区上鳥羽大物町13番地
〒601　電話（075）672－6101㈹
FAX（075）661－7332

八坂運送有限会社

京都市伏見区醍醐新町裏町24番地の4
TEL（075）571－1108

帆　布・濾　布
テント・シート
雨　合　羽

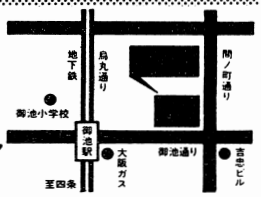
木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前
TEL　801－5331（代）
西大路営業所
下京区西大路七条下ル
TEL　321－0251

登山とアウトドア専門店

今、アウトドア派大集合!!

●登山用品はもちろん、
注目のスポーツ
カヌーをはじめ、
ひと味違う充実の
品揃えは必見のもの!!



ビッグ ホリイケ

営業時間　AM10:00～PM9:00〈年中無休〉
京都市中京区御池通高倉西入（千代田生命京都御池ビル2F）
☎(075)222-0363

京都で唯一の山の専門店

Now Out door sports

ハイキング&キャンピング・クライミング
アウトドアーウェアー・US放出品
ボーイスカウト用品

Mountain

〒604 京都市中京区二条通河原町西入
TEL 075(256)-0546
営業時間 AM10:00～PM8:00 毎週火曜定休
(株) スポーツ コニシ

葦の髄から天井を覗く…⑪

年賀状をやめよう!!ということば師走の気ぜわしい時に叱られるが、実のところ郵政省からの年賀状を書いてもいいのだ。そしてこの年の暮れ、年賀状の提出日が迫ってきた。見舞いの案内状を書くのは、日ごろ交誼を持ってお世話になっている方々に対する礼儀だろう。しかし、ものぐさな人間にとって、これは面倒な作業である。そこで、三寒四温の中、ゆっくりと年賀状の文面を考えてみたい。

前年の雰囲気を引きずって、無駄な文章を削ぎ落とし、簡潔に、しかも、相手の心に訴えるような文章を考えてみたい。

後年の沙汰を詫びる、寒中お見舞いの文章を考えてみたい。

制作 ㈱北斗プリント社
〇七五―七九一―六一二五

建設省国土地理院発行地図販売特約代理店
国土地理院空中写真（カラー・白黒）取次
通産省地質調査所発行各種地質図取扱店
各種地図製作並びに印刷
地形図は、20万・5万・2万5千とも全国を常備しております。

小林地図専門店

株式会社 小林地図専門店

〒600 京都市下京区不明門通六条下る西側
（烏丸通六条東 1筋目下る） ☎（075）351―6598㈹

地下鉄：五条駅 5番出口・市バス：烏丸六条下車

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

サンコークラフト

西島輝雄

左・川端丸太町下る下堤町88
TEL（075）771―3442

平成7年12月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

京交山岳部